

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(4)
(à la carte)

締切り 四月二十三日(必着)

昭和57年11月

任	天	わ
務	与	が
な	の	職
り		業
		は

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

〔作品の出し方〕

- ▼ 今回は硬筆部だけに限ります。全員本会級位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

★わが…(書体Ⅱ楷書)

人として生まれた者は、何かの職業を持たなければならない。人々がその職業を天から与えられたものと考え、これを愛し大切にし、これに努力する時、その家は栄え、その国は富むのである。

もし、わずかな理由のために、それを捨てるようであつたら、一家は零落し、一国は衰亡の道をたどるだろう。それは天与を辱めることである。

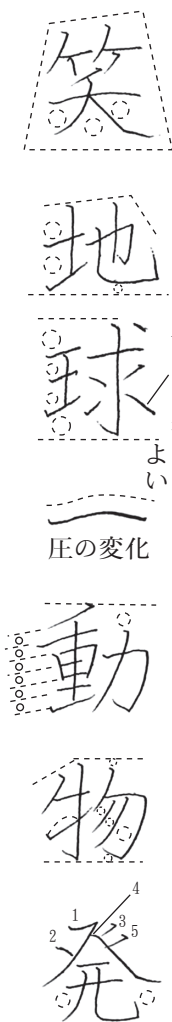
一般部規定課題

締切り 4月23日(必着)

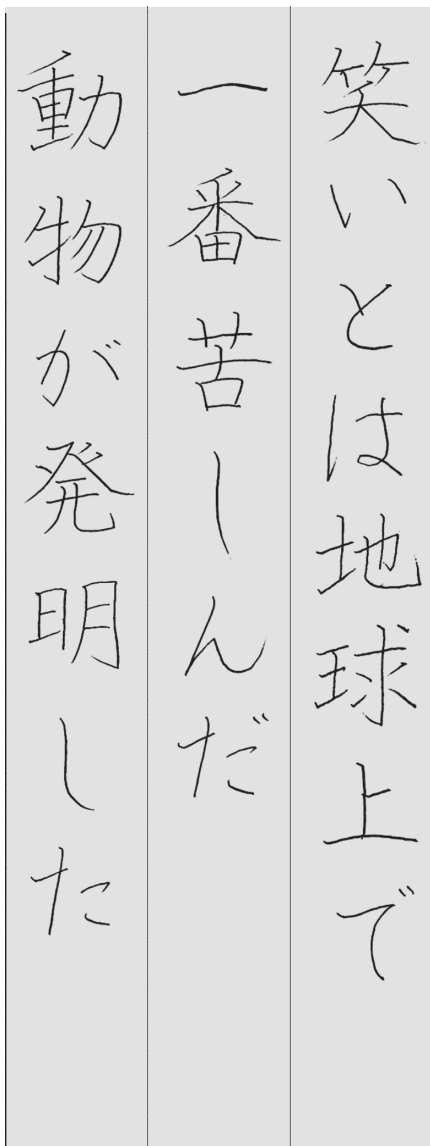
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

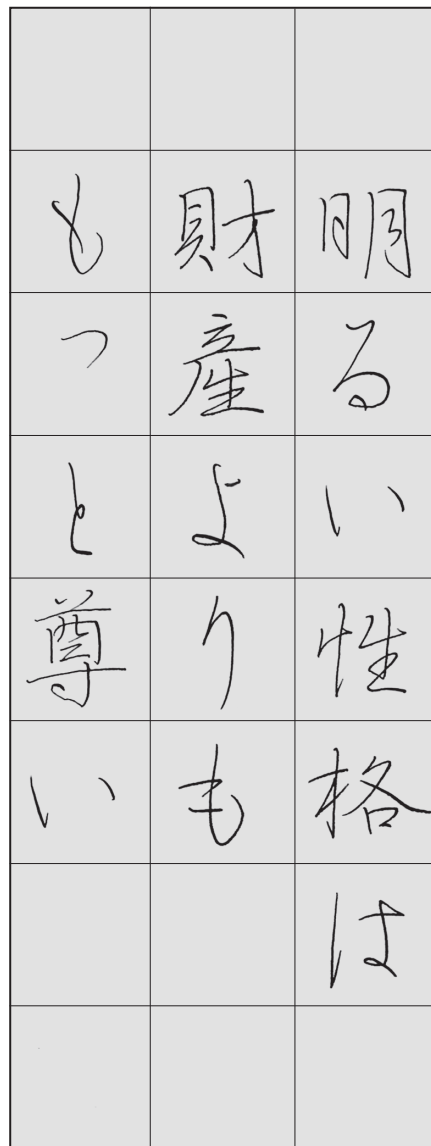
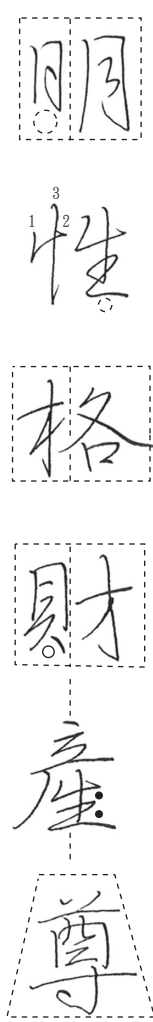


おく むら のぶ ゆき 書
奥 村 暢 之

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★明るい：(書体Ⅱ行書)

アンドリュース・カーネギー

(一八三五～一九一九)

アメリカの実業家

明るさというの意識して作るものであると、実業家は言っています。

誰にも気分が落ち込むことはありますが、周囲の人まで暗くなっているわけではないし、明るい気持ちがあれば、失敗しても立ち直りが早くなるのではないのでしょうか。

◆5月課題予告(楷書)

川も道も人も

曲がるところに

物語が生まれる

★笑いとほ：(書体Ⅱ楷書)

ニーチェ(一八四四～一九〇〇)

ドイツの思想家

笑っている間は苦しいことは忘れられますし、笑うことで楽になることもあります。人間という生き物は他の生き物よりも知能が発達している分、様々なことに考え込んでしまい、精神的な部分では地球上で一番苦しんでいるかもしれません。

◆5月課題予告(行草または草書)

人生は芝居のごとし
上手な俳優が乞食に
大根役者が殿様に

▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

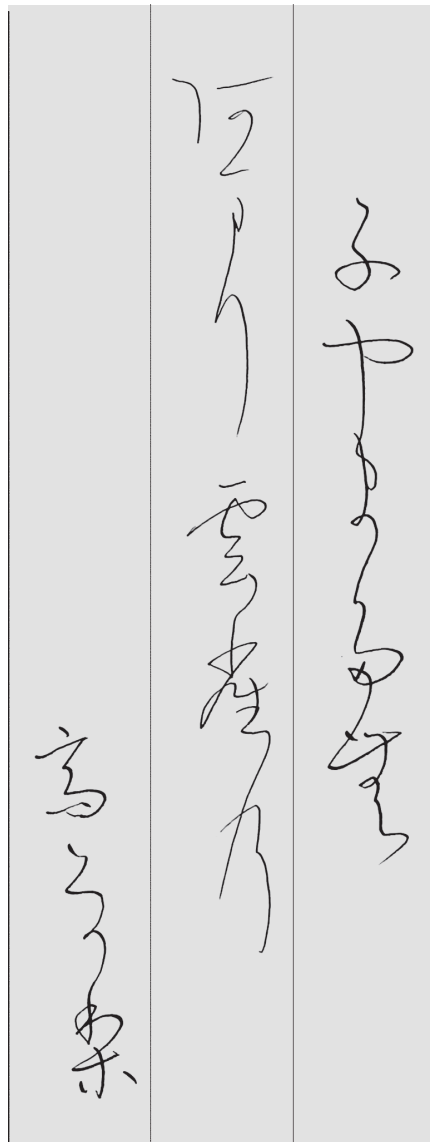
一般部かな課題

締切り 4月23日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

子や待たんあまり雲雀の高上がり

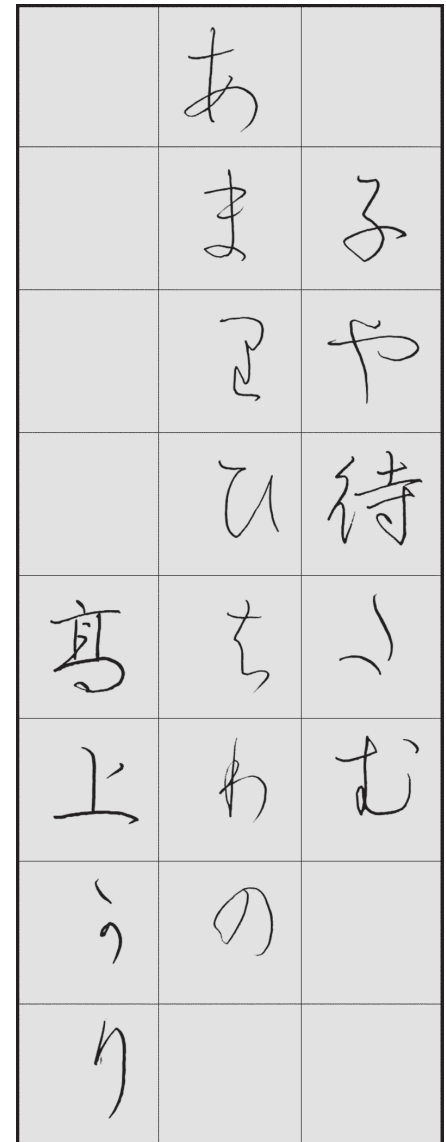


た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

子や待たんあまり雲雀の高上がり



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

【古筆参考】

子や待たんあまり雲雀の高上がり
(杉山杉風)
【句解】雲雀があまりにも高く春の空に上がってさえずっている。下の巣では子が待っているだろうに。
【鑑賞】雲雀の姿としては、空高く上がって鳴くさまがよく詠まれ、それがのどかな春の日とマッチする。『猿みのさがし』の著の中で「雲雀の春色眼前に見えて言外十分の句なり。子や待たんにて魂出来たるなり。揚雲雀の春和にして、高あがりは趣向なり」といっている。

◆5月課題予告

足駄はく僧も見えたり花の雨

(坪井杜国)

多た 無む 阿あ 里り 乃の
あ せ せ せ 乃 乃 乃 の

【解説】「待たん」は「待たむ」と書いても同じ意味で使えます。

締切り 4 月 23 日(必着)

路傍に咲く葎やタンポポの花に
惜春の情を覚えるこの頃ですが、
皆さんお変わりありませんか。
久しぶりに伊吹山の山頂まで登る
計画を立てていますが、かつての
顔ぶれで汗を流しませんか。

路傍に咲く葎やタンポポの花に
惜春の情を覚えるこの頃ですが、
皆さんお変わりありませんか。
久しぶりに伊吹山の山頂まで登る
計画を立てていますが、かつての
顔ぶれで汗を流しませんか。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

世界保健機関 WHO は、全人類の
精神・肉体の向上を目的とする。

岐阜県飛騨市 氏 名

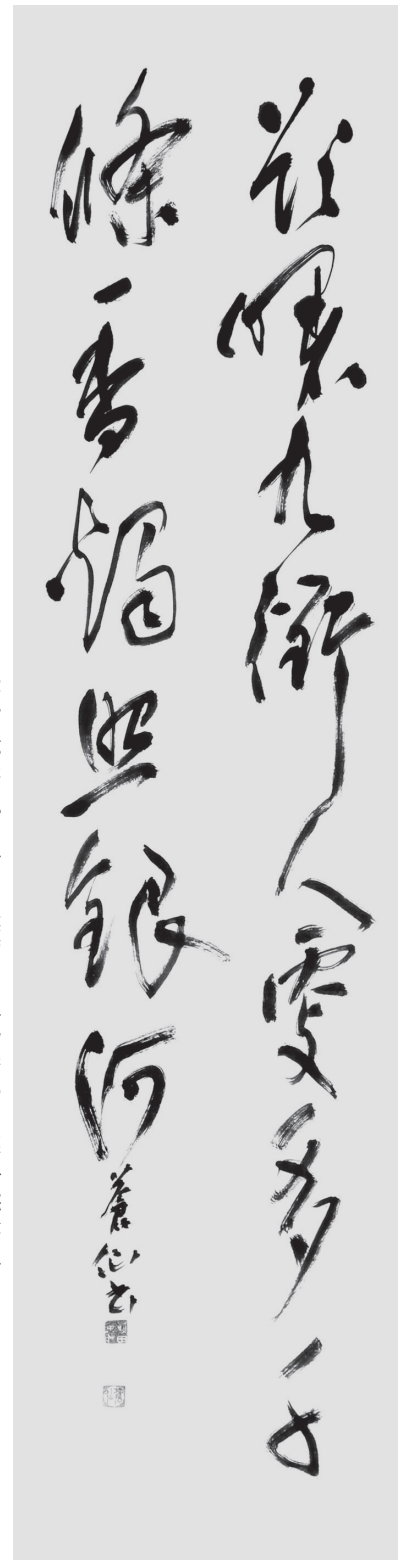
※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 四月二十三日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



あけんとほっしてきゅうくひとまらにおおく
欲曙九衢人更多
せんじょうのこうしよくぎんがをてらす
千條香燭照銀河

そうれいてつ
僧靈澈

〔大意〕明けゆく空、都大路に人は更に多く、無数の香燭は銀河に照り映える。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

新年度がスタートし気合い十分で
ご活躍のこと、存じます。長男の
健一も四月から社会人の一員と
なり、そのご応援を祈います

津田史朗

書 香 梅 藤 伊

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕

鋒先の弾力を使って味、張りのある線……言うは易し……弾力が効いているか感触を手に感じながら、やはり多く書くことでしょうか。

新年度がスタートし気合い十分で
ご活躍のこと、存じます。長男の
健一も四月から社会人の一員と
なりますので応援を願います
（ご自分の氏名）
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

山桜發 欲然

〔解説〕

山 桜

長く

發

発の旧字体

欲然

◎全体として、筆脈が続くように、流れるように！

山桜發 欲然 ※發Ⅱ発
〔大意〕山桜は美しく咲き誇って燃え出すかのようだ。

◎文房四宝―紙について

紙の発明は後漢の一〇五年頃とされている。原料は楮、三桤、藁、竹、麻等である。それ以前は竹簡、木簡、絹布等に書かれていました。紙は大別して唐紙、和紙、また手漉、機械漉(現代)があります。産地により多種多様ですが、大きさは半紙から全紙まであり、またパフォーマンス用の特大紙も作成されています。

保存については湿気を避け、直射日光に当てないように注意したい。やはり書き味、仕上がりにより、味わいが出るのは手漉紙です。

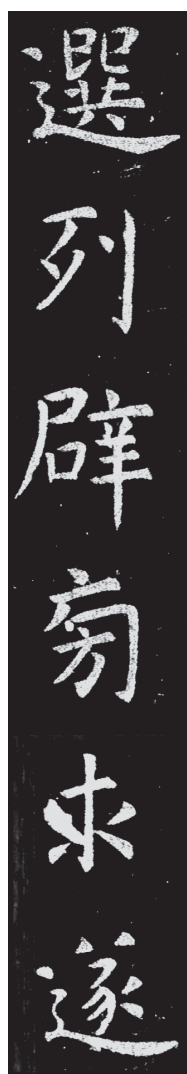
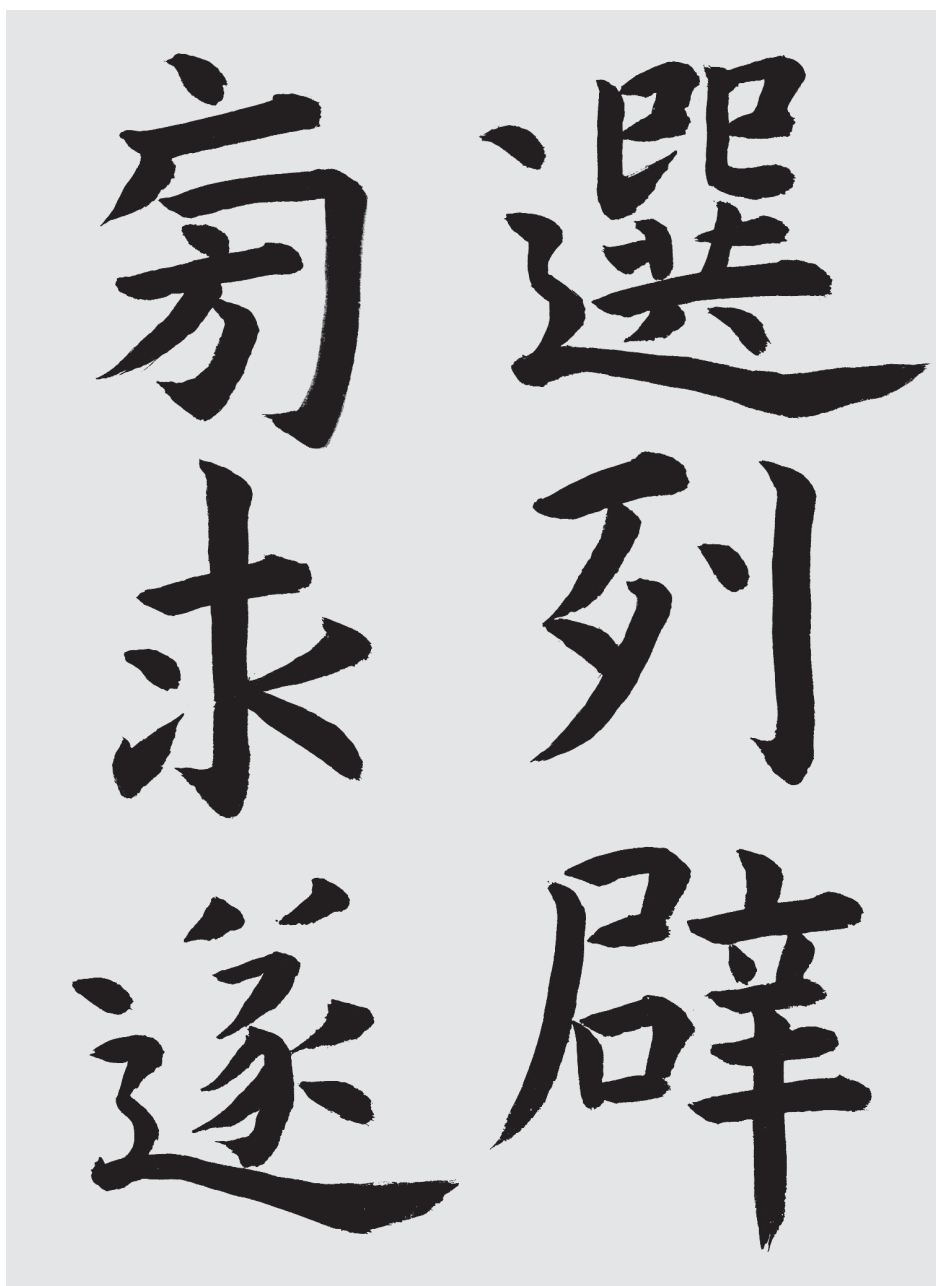
書の表現の大きな要素であるだけに、慎重に選びたいものです。

◆5月課題予告(楷書)

光陰如流水

準初段から師範まで

奥村暢之臨



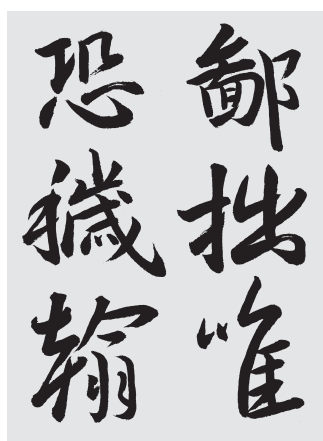
選
列
辟
旁
求
遂

〔出典〕 孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕 虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕 列辟を（歴）選し、遂（古を）
旁求し、

〔解説〕



◆5月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書

飛鮎とぶあゆの底そこに雲くもゆく流なみだかな

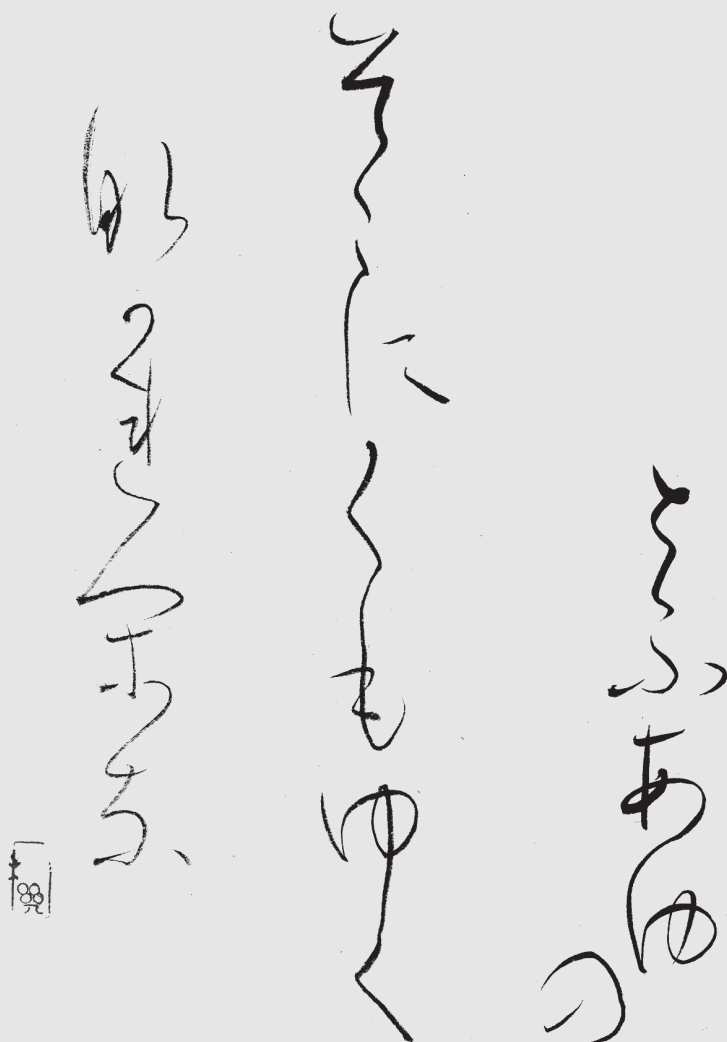
上島鬼貫

〔句意〕

『仏兄七久留萬』に「みや川町にあそびける日ある人の所望に」の前書きがある。鮎のとれるこの清流には折々飛ぶ鮎の姿が見られ、川面には夏の雲が映っている、の意。

◆5月課題予告

牡丹散ぼたんちつて打うちかさなりぬ二に三さん片ぺん



〔解説〕

まず全体を見ると、1行目が中ごろから書き出し「の」がはみ出しています。2行目は上から下までの長い行、3行目は右行よりやや下げて書き出し、下に余白が来ています。それでは、1行1行見ていきましょう。

「とぶあゆの」、中ほどから書き出した「と」は太く小さく、「ふ」へ連綿して細めになり、ゆったり左右の点を打ちます。「あ」の第1画の横線で上を受け、縦線は鋭く入ります。「あ」から「ゆ」への連綿は、右回り右回り左回りで「ゆ」の第1画まで入ります。「ゆ」は続いて右回り右回りで書き終えます。「の」も右回り右回りです。

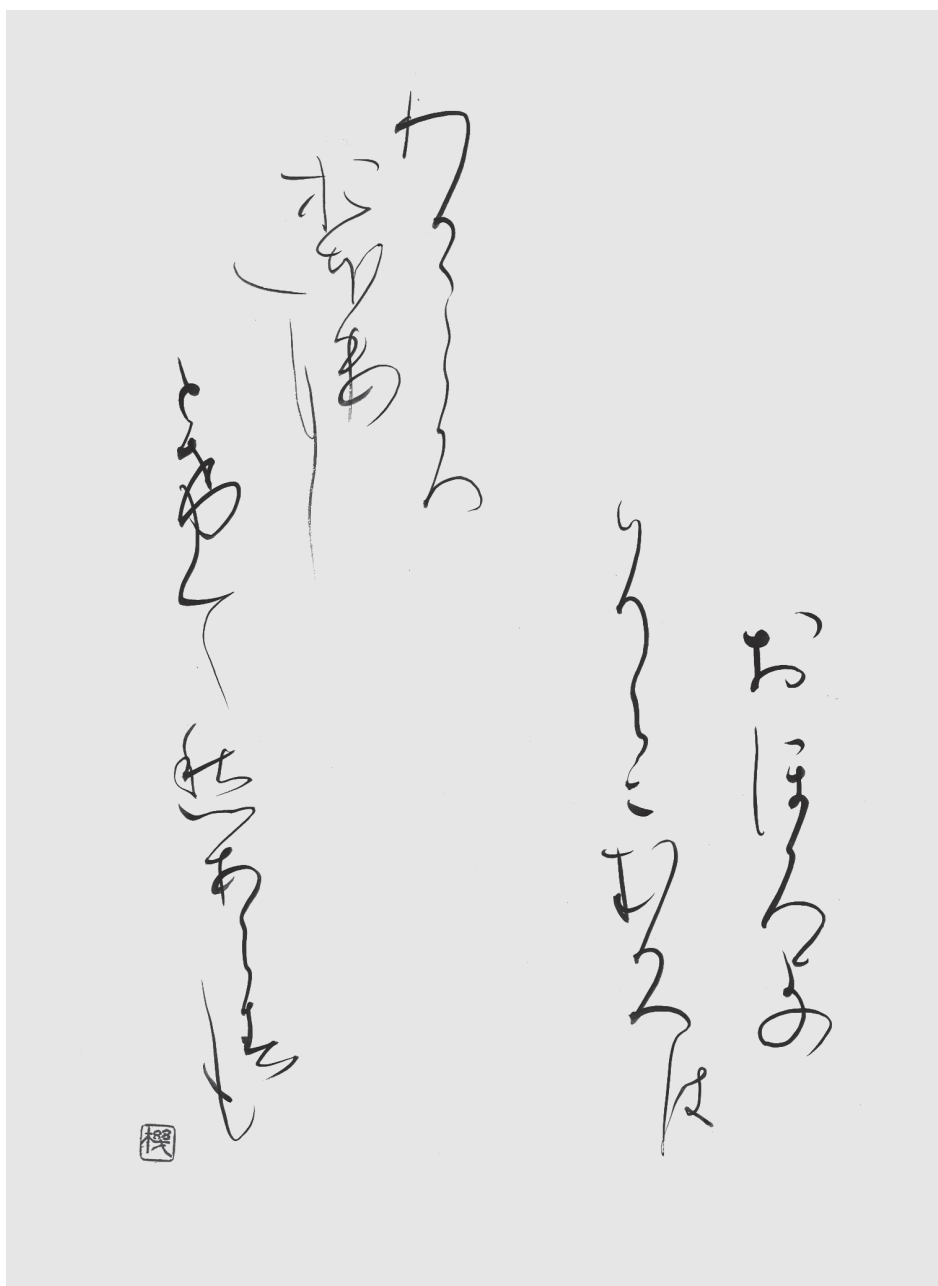
このように曲線は、へ右回りなのか左回りなのか分かって書くことと理解しやすい。もっと言うとうと直線に近い線も右回りか左回りかが分かると筆の動き方がはっきりしてきます。

「そこに…」連綿が切れた「に」、「も」の下の子がへ上をどう受けているかよく見ながら書いてみましょう。また、連綿線が短いので案外スムーズに書けると思います。

「那可連閑奈」、5字とも変体仮名で書いています。変体仮名は同じ「な」でもいろいろあるので自分の好きな字体があれば変換して使ってみましょう。「可」は、点を打ってぐるっと回ると、連綿して点を省略するのと、このように上の字と切れていても点を省略するのとあります。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



おぼろ夜の空にむかへばわがこころ
朧に溶けて愁あらずも

〔歌意〕

朧月夜の空を仰いでいると、わたしのこころもほんのりと空に溶けて、愁い心も今は消え去って、ないことだ。

◆5月課題予告

ぬば玉の夜ふかき水にあはあはし
白くうきさく水蓮の花

窪田空穂

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

上の方に、短い「わ可こゝろ」など3行集団があります。右に2行と左に1行を墨量多くして配置しています。柱になる長い行ではありません。

全ての行がやや左へ倒れています。が、倒れる角度がそれぞれ違っていません。うまく倒れない場合はまっすぐに立てて書いても構いません。

さて、1行1行見ていきましょう。

「おほろよの」「お」は勢いよく書いて、「ほ」の第1画まで書き進め一呼吸してから「の」まで書きます。〈次の字の第1画まで書く〉と連綿がうまくいきます。

「曾ら二…」、「曾ら二」は右の幅広い字を見て縦長の字形で書き出し、一息して、右行を注視しながら「む」は幅広い字形にします。「へは」では右へ移行して、右の行もしっかり捉えます。

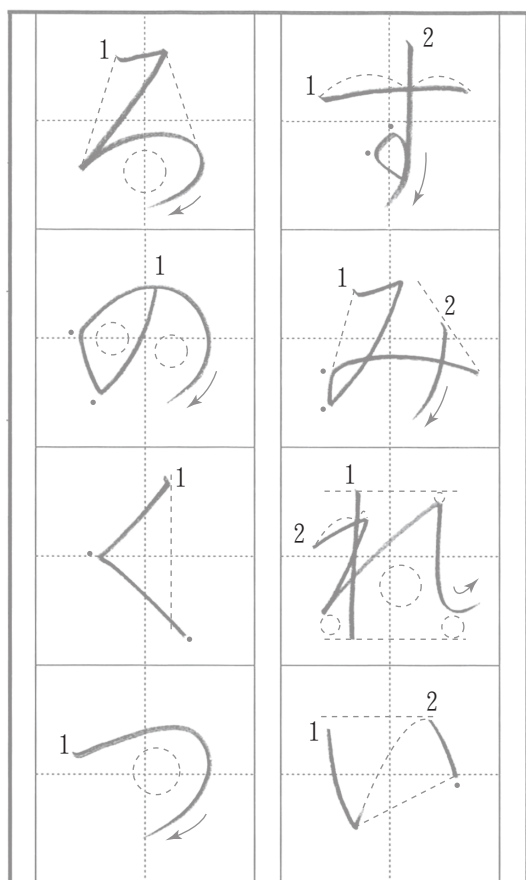
「わ可こゝろ」、高いところからゆったりとした気持ちで書き出します。

「於本婁」、右がすっきりしているから画数の多い字で華やかに書きます。

「耳」、ゆったりした縦線を強調した字形で書き、この3行で1かたまりにして〈作品の主役〉を演じます。墨量は少なくなっていますが、作品の上部で見応えは十分にあります。

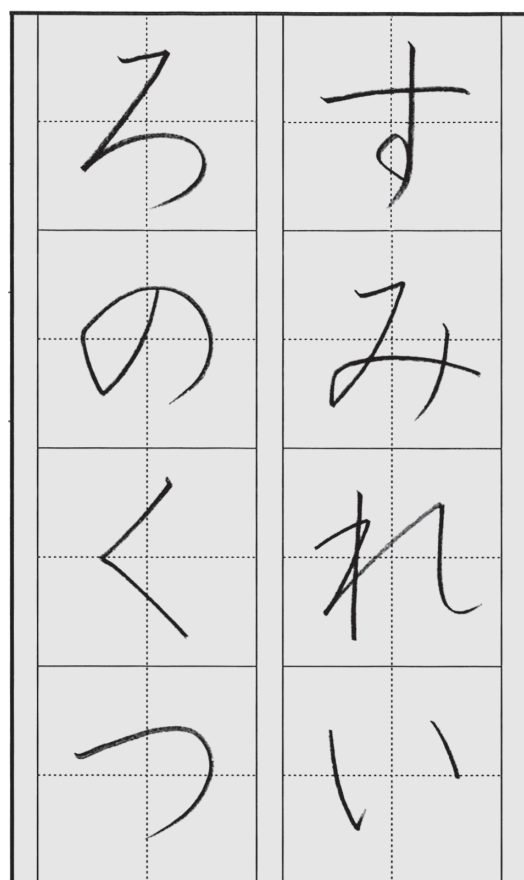
「と希て愁あら春も」「と」で墨継ぎしますが、第1行の行頭「お」と、第2行の行頭「曾」をならみながら位置を決めて書き出します。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



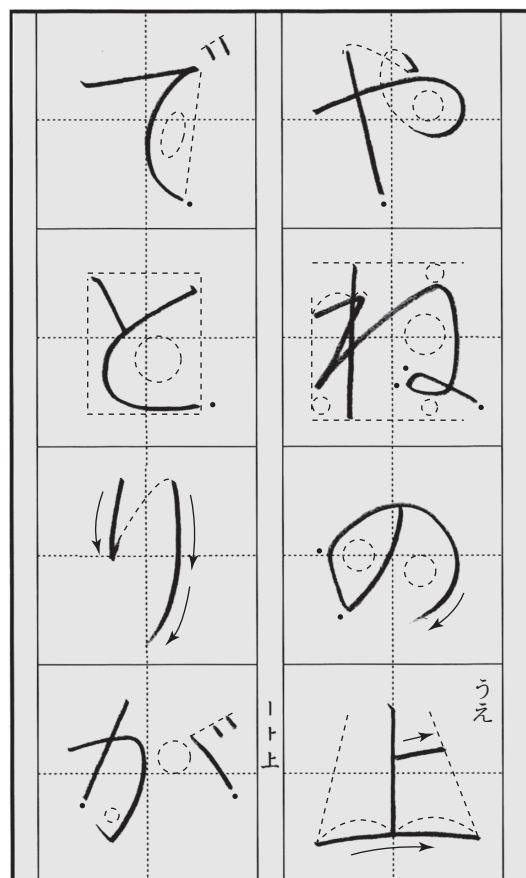
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



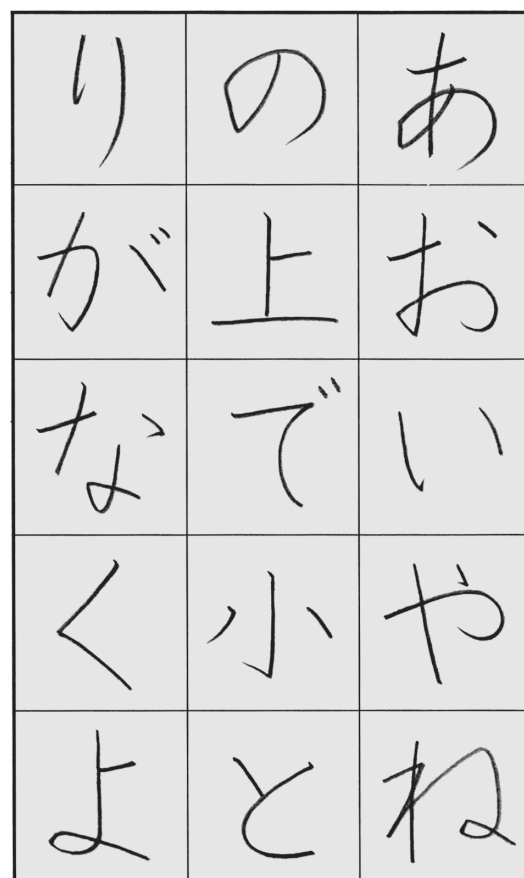
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

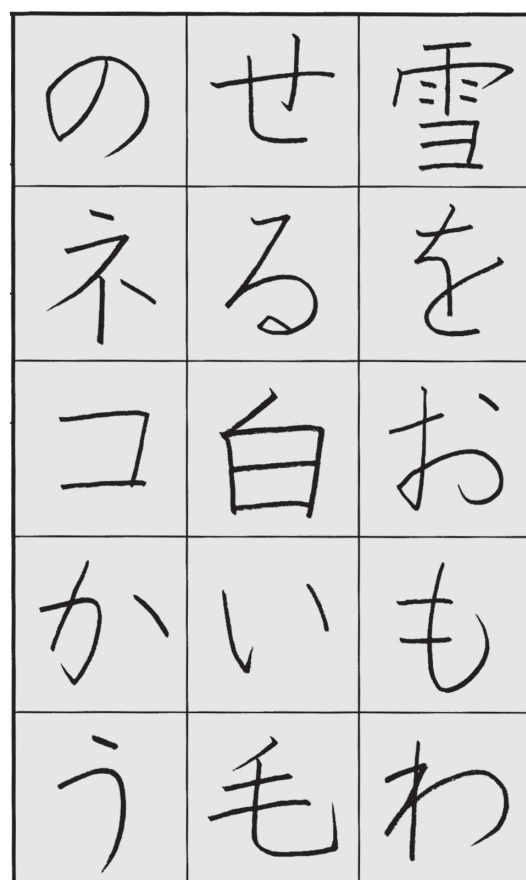
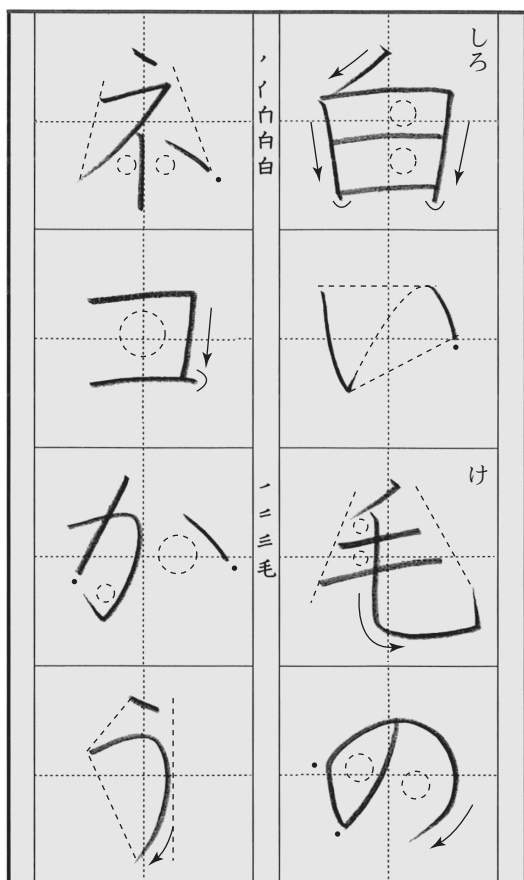
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

*用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。

*六月締切り分までは、この方法が続けます。

*ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。

*七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

セ	世
カイ	木
イツ	一
シユウ	周

一十オ木本

一十オ木本

一十オ木本

一十オ木本

新小四年

(全員)

定	店
景	福
小	引
中	限

テイ

みせ

ケイ

フク

ヒン

び(き)

ゲン

解説(よく見て習いましょう)

を	で	店
も	限	の
ら	定	福
っ	景	引
た	品	き

新小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

ハナキチ食飼飼	シ 飼	ヨク 習
イナキ育育育	イク 育	シュウ 週
トリツツ当当当	トウ 当	わたし 私
ハハキ班班班	バン 番	ハン 班

解説(よく見て習いましょう)

の	班	習
飼	が	週
育	ウ	は
当	サ	私
番	ギ	の

新小六年

(全員)

て	辺	机
掃	を	の
除	整	上
す	頓	や
る	し	周

新中二・三年

(行書)

張	呼	発
を	吸	表
ほ	し	前
ぐ	て	に
す	緊	深

新中一年

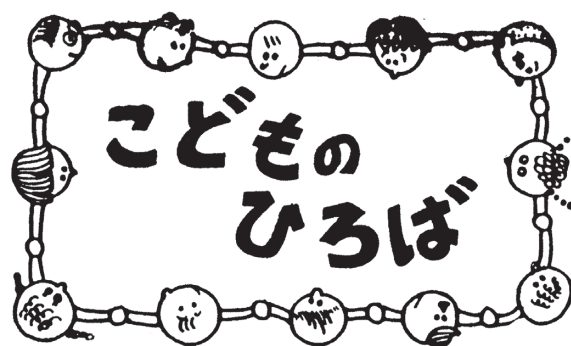
(行書)

▼小三年以下の課題 後 藤 友 泉 書

と	元 ^{げん}	花 ^{はな}	ミ	は
び	気 ^き	か	ツ	た
ま	に	ら	バ	ら
わ		花 ^{はな}	チ	き
れ		へ	さ	者 ^{もの}
		と	ん	の



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 4月23日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題 え 本 由 泉 書

照 ^て	日 ^ひ	春 ^{はる}	白 ^{しろ}	遠 ^と
ら	差 ^さ	の	い	く
さ	し	暖 ^{あたた}	山 ^{さん}	に
れ	に	か	脈 ^{みやく}	見 ^み
輝 ^{かがや}		な	は	え
く				る



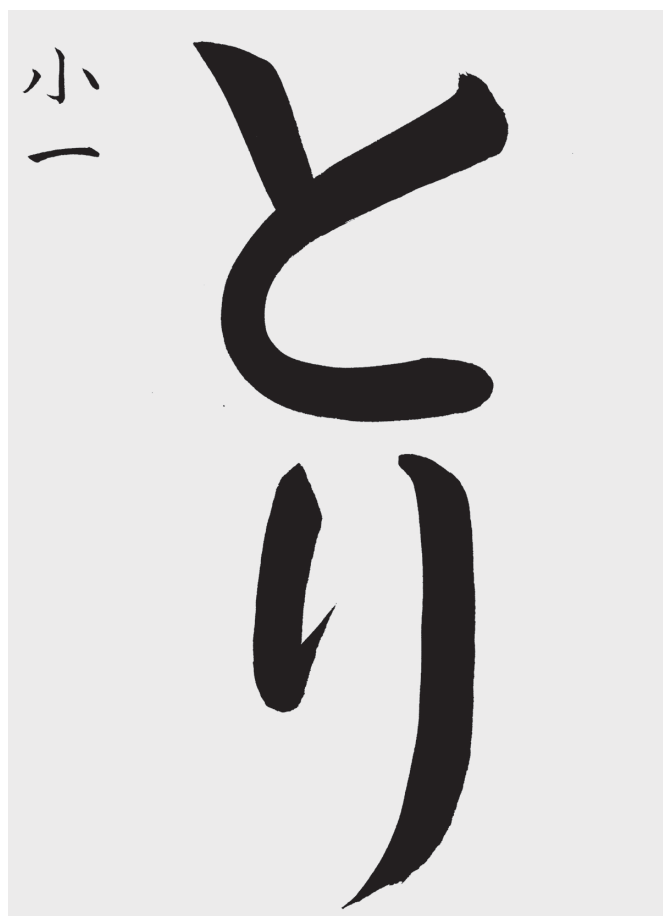
◎お手本はつけペン使用

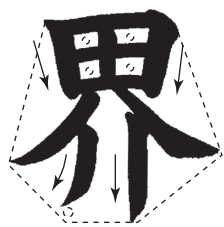
◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／新小二年
酒井智仔書





新小三〜新小五年
水野碧友書

中二・三

掃除

小六

飼育

新小六〜新中二・三年
玉樹小華書

吸

飼

掃

育

除

呼

※行書はリズムよく筆を運ぶことが大切です。

中一

呼吸